



よいことの
ために
手を取りあおう

会報

WEEKLY REPORT

2025-26 R.I.会長

フランチエスコ・アレツツオ
第2500地区第6分区帯広北ロータリークラブ
会長/荒木樹
副会長/一宮綾子
幹事/齊藤政樹

[四つのテスト] 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3191回 例会報告

2026.1.23

■点鐘

荒木 樹 会長

■開会宣言

及川 悟 SAA

■ロータリーソング (我等の生業)

■ゲスト紹介

モンゴル イクウ・ウルグロータリークラブ
 会長 Batbold Erkhemsaikhan 様
 創立会長 Nasnbt Tseepil 様
 直前会長 Rvdndorj Shiterdorj 様
 会員 Btkhishig Shiterdorj 様
 会員 Origoo Snkhuu 様
 Nsmbtyn Dulguun 様

米山記念奨学生

フランシスコ エルトン アマデウス 様

■ビジター紹介

帯広ロータリークラブ 小沢 昌博 様

■会食

■会長挨拶

荒木 樹 会長

 本日の例会には、モンゴル国よりイクウルグ・ロータリークラブの皆様をお迎えしております。遠く寒い帯広までお越しいただき、心より歓迎申し上げます。

皆様ご承知のとおり、昨年、当クラブの会員が医療用金属容器の増点事業のためモンゴルを訪問いたしました。今回はその際のご厚意に対する返礼としてご訪問いただいたと伺っており、両クラブの友好と信頼の深まりを大変うれしく思っております。

せっかくの機会ですので、少しモンゴルという国についてご紹介させていただきました。モンゴルは日本の約4倍という広大な国土を有しながら、人口は約350万人と、北海道の人口の約6割程度です。その多くが首都ウランバートルに集中して

おり、同市の人口は約175万人と、札幌市に匹敵する規模となっています。

経済面では、一人当たりGDPは日本と比べるとまだ低い水準にありますが、過去10年で人口は約2割増加し、GDPも米ドル換算で約2倍に成長するなど、著しい発展を遂げています。人口減少や経済停滞という課題を抱える日本と比較すると、モンゴルが持つ成長のエネルギーには大きな可能性を感じさせられます。

また、モンゴルにおけるロータリー活動も非常に活発です。1995年頃に初めてクラブが設立されて以降、現在では23のロータリークラブがあり、さらにローターアクトクラブ14、インターラクトクラブ23と、青少年プログラムが数多く展開されています。これは、成長途上にある国として、次世代の育成に力を注いでいる証であり、私たち日本のロータリーにとっても大きな学びとなります。

本日はこの後、イクウルグ・ロータリークラブの皆様から卓話をいただく予定です。国境を越えた友情と理解を深める、有意義な時間を共有できれば幸いです。

最後に、モンゴル語で感謝の言葉を申し上げます。

「バヤルララー（ありがとうございます）」

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

■会務報告

斎藤 政樹 幹事



- ・1月30日（金）：休会
- ・2月12日（木）：帯広5RC・芽室RC・音更RC合同例会開催
午後0時会食
午後0時30分～1時30分 例会



■ニコニコボックスの発表

斎藤 政樹 会員
松田 孝志 会員

一宮 綾子 副会長

細川 吉博 会員
村上 道隆 会員

一 細川 吉博 会員 より



細川会員からは、過去にモンゴルを訪問した際の思い出と、現地で感じた人々の温かさ、そして都市の変化について、写真を交えながら語っていただきました。

■プログラム

ゲスト卓話

モンゴル イクウ・ウルグウロータリークラブ
会長 Batbold Erkhemsaikhan 様

モンゴル・イクウルグロータリークラブからは、現在取り組んでいる「スマートメンタルヘルス支援プロジェクト」についてご紹介がありました。

本プロジェクトは、首都ウランバートルから約1,100km離れたザファン地区を中心に、過去4年間にわたり実施されている国際奉仕事業です。同地区は寒冷で山岳地帯が多く、「モンゴルの北海道」とも例えられる地域で、集落は200~300人規模と小さく、医療機関へのアクセスが非常に困難な状況にあります。

地方の診療所では医師が1名のみというケースも多く、専門的な診断や治療を受けるためには、遠方の大規模病院への紹介が必要となります。しかし、厳しい気候条件や長距離移動、時には馬での移動を伴うこともあります、医療格差が大きな課題となっています。

こうした背景のもと、本プロジェクトでは、遠隔地や移動が困難な地域においても適切なメンタルヘルス支援を提供することを目的に、医療記録のデジタル化、症状評価の標準化、専門医との遠隔相談など、「スマート」な仕組みを活用した支援体制の構築を進めています。

運営体制は国際色豊かで、モンゴル人をはじめ、イギリス、日本、台湾など多国籍のロータリアンが連携し、英国・日本・台湾の関係機関とも協力しながら事業を展開しています。現在は、総額2万ドル規模のグローバル・グラント申請に向けた準備も進められていることです。

また、「The Night For Good」といったチャリティイベントや、2014年から継続している地域向けプログラムなど、これまでに複数の活動実績が積み重ねられており、今後もさらなる発展が期待される取り組みであることが紹介されました。

現地では、健康機器の贈呈をはじめとした国際奉仕事業や、数々の交流行事が行われ、モンゴルの人々の心のこもったもてなしに深い感謝の思いを抱いたとのことです。特に印象的だったのは、広大な自然の中での体験でした。砂漠の縁でドローン撮影を行った際には、車が砂に埋まってしまうというハプニングもありましたが、現地の方々の協力のもと、約1時間をかけて無事に脱出できたというエピソードが紹介され、会場には笑いも起きました。

また、ゲルに宿泊した体験や、食文化についての話も披露されました。ラムとマトンの味の違いに驚いたこと、羊の顔の部位が食卓に並び戸惑ったことなど、異文化ならではの体験が印象深く語られました。一方で、意外にもウォッカが振る舞われなかった場面があり、「必ずしも固定観念どおりではない」という現地事情にも触れられました。さらに、首都ウランバートルの都市発展についても言及がありました。十数年前に訪れた際には、道路事情が悪く、古い建物が目立っていたものの、現在では道路が整備され、ショッピングセンターや立派なホテルが立ち並ぶなど、中心部は見違えるほど近代的な都市へと変貌していることです。「すごい都会になった」との率直な感想が、その発展の勢いを物語っていました。

現地ロータリークラブとの交流や、日本で大学を卒業したモンゴル人女性に案内されたイタリア料理店での思い出なども紹介され、モンゴルと日本との距離が確実に縮まっていることを感じさせる内容となりました。

今回の回想は、国際奉仕の意義とともに、異文化理解の大切さ、そして長年にわたる交流が育んできた信頼関係の深さを改めて実感させるものとなりました。

—工藤 一則 会員 より

首都ウランバートルは、人口規模や都市の大きさにおいて札幌市に匹敵する都市ですが、今回の



事業対象地であるザブハン省（県）は、首都から約 1,100 キロメートルも離れた遠隔地に位置しています。病院の数も少なく、道路事情や医療体制は決して十分とは言えない地域で、人口 1,000 ~ 2,000 人、あるいは数百人規模の小さな村が点在しています。

この距離感について、工藤会員は自身の体験として、昨年バイクで仙台から岡山まで約 1,100 キロを高速道路でノンストップ走行し、13 時間を要したことを紹介しました。その経験から、ウランバートルからザブハン省までの移動が、現地では車で何時間、場合によっては何日もかかる厳しい道のりであることが実感できると述べられました。こうした厳しい環境の中で、医療、とりわけメンタルヘルス分野の支援を進めるため、イクウ・ウ

ルグウロータリークラブを中心に、メンタルヘルス関連の医療機器を現地へ納入する国際奉仕事業が進められています。本事業では、メンタルヘルス機器 25 台の提供が予定されており、帯広北ロータリークラブは補助的な立場として他クラブと合同で参画しています。すでにグローバル・グラント事業として進行しており、ガバナーからの承認も得られているとの報告がありました。

また、来年度には VTT（職業研修チーム）事業も予定されており、5 月には再びモンゴルでの事業が計画されているとのことです。今後も日本とモンゴルのつながりをさらに深め、文庫交流などを含めた継続的な交流とともに、メンタルヘルス支援事業を引き続き応援していきたいとの力強い言葉で締めくくられました。



■次週のプログラム予定

「休会」

- 閉会宣言 及川 悟 SAA
- 点鐘 荒木 樹 会長

例会 案内

〈月曜日〉 広尾RC:日高信金広尾支店 〈水曜日〉 帯広RC:ホテル日航ノースランド 〈木曜日〉 足寄RC:足寄銀河ホール21
帯広南RC:北海道ホテル 上士幌RC:川村福祉会館 清水RC:清水町中央公民館
〈火曜日〉 芽室RC:めむろーどセミナー 音更RC:ハピオ木野 帯広西RC:北海道ホテル
帯広東RC:ホテル日航ノースランド

■出席報告／渡辺 紘生 出席委員長

会員数	計算に用いる会員数	ホームクラブ出席数	メークアップ	欠席	出席率